

石見神楽の里
島根県
益田市

島根県益田市

伝統芸能

石見

神楽

いわみかぐら

いわみかぐら 石見神楽とは

石見神楽は石見一円で演じられる神楽です。神楽とは「神座」の語から転じたものと言われ、神々を招き、舞踊を伴った鎮魂のための行事をするのが目的です。

その由来は古く、室町時代には大元神を信仰した田楽系の神楽が行われていました。慶長年間になると出雲佐陀神楽が猿楽能を脚色して神能として演ずるようになり、その佐陀神能が爆発的に石見に波及しました。

江戸時代は神官がこの神楽を上演していましたが、明治維新の神職演舞禁止令により、神官から土地の人々に受け継がれ、明治中期に新しい感覚が加わって大改正されました。リズムは活発な石見人の気性そのままに勇壮な八調子とよばれるテンポになり、絢爛豪華な衣装は視覚を夢の世界に誘い、舞手の厳粛な所作は神話の世界を再現させています。

演目は30種類以上にのぼり、神楽団体の数は100以上。今や神社の奉納はもとより、各種の催事にかかすことができない誇れる郷土芸能となっています。



塵輪 ●じんりん

【登場人物】 仲哀天皇・高麻呂・塵輪

人皇第14代の帝、仲哀天皇の時代、塵輪という名で身に翼があり神通自在に飛び行く大悪鬼が、異国から兵を率いて日本に攻め入ります。天皇は高麻呂をはじめとする兵を従え、天の鹿兒弓と天の羽々矢の威徳を持って、自らこの大悪鬼を退治します。二神二鬼の激闘は見応えがあり、石見神楽の代表的な演目の一つです。



岩戸 ●いわと

【登場人物】 児屋根命・太玉命・宇津女命・手力男命・天照大神

天照大神は弟神の須佐之男命の乱暴に困り、天の岩戸にお隠れになります。世界が闇に閉ざされる中、神々は一計を案じ、宇津女命に舞いを舞わせませす。八百万の神々が笑うのを不思議に思い、天照大神が岩戸を開き垣間見たところを、手力男命が戸を引き開け、世界は再び明るくなりました。神楽の起源ともいわれる神聖な演目です。



黒塚 ●くろづか

【登場人物】 法印・剛力・女・悪狐・三浦の介・上總の介

法印と剛力が修行の旅の途中、那須野ヶ原で女に一夜の宿を借ります。この女こそ金毛九尾の大悪狐で、剛力は食われ法印は逃れました。後に三浦の介と上總の介の二人が悪狐を退治します。



天神 ●てんじん

【登場人物】 菅原道真・隨身・藤原時平
菅原道真は、左大臣藤原時平の讒言により筑紫へ左遷されますが、道真の祈りが通じ、天は罰として鉄火や雷を降らせませす。時平は悪心が高じ鬼となりますが、立ち合いの末、道真に討ち取られました。



八幡 ●はちまん

【登場人物】 八幡麻呂・第六天悪魔王
異国から第六天の悪魔王が日本に攻め入り人々を苦しめるので、八幡麻呂が自ら出向いて、神通の弓に方便の矢をもって退治します。豊前の国、宇佐神宮のご祭神である八幡の神を讃える神楽です。



五神 ●ごじん

【登場人物】 春青大王・夏赤大王・秋白大王・冬黒大王・埴安大王・使・式部の老人
国常立王の四人の王子は、春夏秋冬で一年という方角を分配していましたが、五番めの埴安大王が領地を要求したため争いが起こります。式部の老人の仲裁により再び平和が訪れます。



かっ鼓・切目 ●かっこ・きりめ

【登場人物】 かっ鼓・切目・介添

切目王子に仕える神綱宜が、かっ鼓太鼓を良く鳴る場所に据えようと舞います。その太鼓を切目王子と介添が問答をしながら打ち鳴らし、天下泰平・国家安穩を祈る神楽です。

大蛇 ●おろち

【登場人物】 須佐之男命・足名稚命・手名稚命・櫛稲田姫・大蛇

須佐之男命が高天原を追放され、出雲の国斐の川の川上にさしかかった時、嘆き悲しむ老夫婦と娘に出会います。山奥に住む大蛇に娘をさらわれると聞いた須佐之男命は、大蛇に強い酒を飲ませて退治し、助けた娘の櫛稲田姫と結婚しました。この時大蛇の尾から出た剣は天照大神に捧げられ、後に三種の神器の一つとなりました。



神と人が織りなす 荘厳華麗な神話の世界

恵美須・大黒 ●えびす・だいこく

【登場人物】 恵美須・大黒

美保神社のご祭神、事代主命の神徳を讃える演目です。事代主命は大国主命の御子で、七福神の中の恵美須様と同一視されています。特に漁業の神様としてあがめられ、舞の中でも釣り好きの恵美須様が鯛を釣り上げる様子が、おおらかでユーモラスに演じられます。商売繁盛の神として、恵美須講などでも祭られています。



大江山 ●おおえやま

【登場人物】 源頼光・渡辺綱・坂田金時・姫・酒呑童子・鬼丹波の国、大江山に住む酒呑童子という悪鬼が、多くの手下を従え庶民を苦しめていました。勅命を受けた武勇の誉れ高い源頼光は、渡辺綱、坂田金時らと共に修験者に変装し、酒呑童子を退治します。



鍾馗 ●しょうき

【登場人物】 神・鬼

中国の玄宗皇帝が病に苦しんでいるのを聞き、須佐之男命が皇帝の夢に出てくる疫病を司る鬼を退治しました。皇帝は夢に現れた神を鍾馗と名付け、以来疫病退散、魔を除く神とあがめられています。



十羅 ●じゅうら

【登場人物】 十羅刹女・彦羽根

彦羽根という悪鬼が日本に渡り来て庶民を悩ませていました。それを聞いた須佐之男命の末娘で日御碕の鰐淵山に住む十羅刹女という女の神様が、彦羽根を改心させ、元の国へ追い返しました。



鈴鹿山 ●すずかやま

【登場人物】 坂上田村麻呂・村人・大悪鬼・小鬼

垣武天皇の頃、鈴鹿山の鬼が庶民を苦しめるため、坂上田村麻呂に退治の勅命が下されます。田村麻呂は里人の案内で鈴鹿山に向かい、この鬼を退治します。

神迎 ●かみむかえ

【登場人物】 東(春)・南(夏)・西(秋)・北(冬)

東は春、南は夏、西は秋、北は冬、中央は四季の土用を司り、木火土金水の陰陽五行説による舞で、神の降臨を招く、儀式舞の中でも最も重要な神楽です。

八十神 ●やそがみ

【登場人物】 大国主命・八上姫・八十神(兄・弟)

大国主命の異母兄の八十神は八上姫と心通わず命を妬み、亡き者にしようとする謀を巡らします。命は難を逃れた後、戦いに勝って兄神を降参させ、出雲国の統治者となりました。

國受 ●くにうけ

【登場人物】 経津主命・建御雷神・大国主命・事代主命・建御名方命

経津主命と建御雷神は、天照大神の命により大国主命に国を譲るよう迫ります。二人の御子のうち建御名方命は承服せず力比べを挑みますが、敗れて国譲りに同意しました。

貴船 ●きぶね

【登場人物】 女・鬼女・百姓(夫)・三吉・安倍晴明

主人に離縁された女が、無念さに貴船明神に参詣、願掛けを遂げて鬼女となります。鬼女は安倍晴明が祈祷し夫の身代わりとなった人形を打握えながら狂おしく舞います。

道がえし ●ちがえし

【登場人物】 神・鬼

常陸の国に住む武甕槌命は、世界を股に掛けて暴れる大悪鬼が日本にやって来た時、これを討ち降参させました。道返しとは退治せず、改心してひき返させたという意味。

西大和 ●にしやまと

【登場人物】 日本武尊(日本童男命)・女・長吉・熊襲

景行天皇の皇子・日本童男が熊襲征伐のため九州に赴き、女装して熊襲猛に近付き、酔い潰れたところを討ちます。熊襲猛は死の間際、勇者である武尊の名を童男に贈ります。

東大和 ●ひがしやまと

【登場人物】 日本武尊・吉備武彦・大和姫・兄ぎし・弟ぎし・賊首

熊襲征伐を終えた日本武尊は、天皇の命で東国平定に向かいます。賊に謀られ火攻めに遭いますが、大和姫から授かった剣と火打石により難を逃れ、賊を退治しました。

ちよと豆知識

和紙面

明治時代、和紙張りの軽い面に改造され、緩やかだった六調子の舞が軽快な八調子のテンポに変化しました。現在の神楽面は、石こう型に粘土を詰めてつくった型に、石見半紙を使って重ね張りし、乾燥後型からはずして彩色し、仕上げます。

衣裳

金襴仕立てや、縹子地、黒ピロードの地に金糸銀糸を使用し、龍や唐獅子の刺繍などを縫いつけたものです。すべてが手作り手作業で、仕上げまで1年以上かかることもあります。製作費は数十万円から数百万円にもなります。

蛇胴

「大蛇」に登場する蛇の胴の部分で、素材は石州和紙と竹で作られています。蛇胴が使われるようになったのは昭和になってからで、考案は石見神楽にとって一大革新となり舞が勇壮でダイナミックなものとなりました。



◆ 奉納神楽って…何？

1年の無事と、収穫への感謝を氏神に捧げる為に奉納される神楽です。

● 開催されるのはいつ…？

石見地方では9月下旬～11月下旬にかけて、お宮で夜を徹して行われます。

● 神社に着いたらどうするの…？

神楽を見る前に、まず、お宮に参拝します。

石見のほとんどのお宮は「2礼・2拍手・1礼」が作法です。

● 奉納神楽の鑑賞の仕方は…？

特に決まりはありません。感動したら、惜しめない拍手を！

「よう舞うた!(よく舞った!)」と舞手に声をかけるのは最高の褒め言葉です。

ホールなどで観光用に舞う神楽は、写真撮影が禁止されている場合がありますが、奉納神楽は通常写真撮影OKですので、他のお客様に迷惑にならないように撮影してください。

◆ 神楽の“通”な見方

その①
花を打つ!!

おんはな
御花を神楽社中に渡す事を“花を打つ”と言います。封筒に名前と住所を記入して花(1,000円～3,000円)を打つと、幕間に名前を読み上げ、健勝と商売繁盛などのご祈祷をしてもらえます。

その②
神楽面を
チェック!

他県で使用する神楽面の多くは木彫りの物ですが、石見地方では石州和紙を使った張子面が使われます。神楽面は社中によって異なる為、面の形、表情の違いなどを楽しむのも通な見方の一つです。

その③
衣装を
チェック!

金糸・銀糸を贅沢に使用した神楽衣装はすべて手作り。注文から仕上りまで1年以上かかる事もあります。1着の制作費は数十万円～数百万円になる物も！
演目によっては何枚も衣装を重ね、約30kgの重さを身に着け華麗に舞われます。

～ Deep な石見神楽の楽しみ方～

神楽社中体験

豪華な衣装を試着してみたり、太鼓や手拍子を鳴らしてみたりと観るだけでなく触れてみる体験。

石見神楽にまつわる歴史や各演目の見どころなども神楽社中員から解説してもらえるので、神楽の見方が変わります。

※お問合せ・お申込みは

(一社)益田市観光協会まで ☎0856-22-7120



～ 石見の夜神楽・益田公演～

石見神楽が気軽に鑑賞できる定期公演がございます。
公演日等の詳細はこちら



【飛行機】

■「萩・石見空港」
〔益田駅〕までバスで10分
〔羽田空港〕から…1時間30分

【自動車】

■「浜田IC」または「戸河内IC」経由
東京から…12時間
大阪から…5時間30分
広島市内から…2時間30分

【新幹線・列車】

■「新山口駅」まで新幹線→山口線の特急
「東京」から…6時間15分
「新大阪」から…3時間40分
「広島」から…2時間30分
■夜行バス
「大阪」から…7時間30分
■高速バス
「広島」から…2時間45分～3時間



(一社)益田市観光協会

〒698-0024 鳥根県益田市駅前町17-2
TEL 0856-22-7120 FAX 0856-23-1232

<http://masudashi.com/>

益田市観光協会

検索

発行元：益田市石見神楽公演事業実行委員会 発行月：(第2版) 令和4年3月